

北九州市民の会ニュース

共謀罪法案の強行採決許すな！ 怒りの北九州集会

6月14日(水)18:00~19:00 共謀罪に反対する北九州決起集会がもたれた。平和をあきらめない北九州ネットと北九州憲法共同センターの共催。各団体からのアピールには、安倍政治を許さない！共謀罪は監視社会を招く！野党共闘と国民の民主主義の力を発揮しようとりレートクに怒りと熱気が伝わった。「中間報告」という禁じ手により、共謀罪は15日朝に強行採決された。平和をあきらめない北九州ネットは、15日も抗議の北九州決起集会をもった。



250回！さよなら原発金曜行動

6月16日(金)、さよなら原発金曜行動は、節目の250回を迎えた。参加者は、いつもの金曜行動より多かったが、特記すべきことは、感動を運んでくださった2人の大学関係の韓国人の方のアピールでした。お二人は、シルクロードをとおり、ソウルからローマまで脱原発を訴え歩き続けるということです。朴槿恵大統領を弾劾、辞職させた韓国国民運動のお話も、私たちを鼓舞するものでした。継続は力。300回を目指して、毎週の金曜行動への参加をよろしく願います。



小倉南革新懇総会で 徳本正彦先生が講演

6月17日(土)小倉南革新懇総会が開かれました。2017年度の活動方針と予算案が採択されました。記念講演は、徳本正彦氏(九大名誉教授)「憲法問題の核心」であった。徳本先生が「国民の中の多くの善意の人たちに関心を持ち、その人たちが、世の中のありようについて疑問を持ち、一步前に踏み出す時、政治に関心を持ち、やがて政治の中の真意を見分けようとしていく。その流れを作るのは、人間の英知である。人間への愛と英知への信頼こそ、未来への希望の源泉」と語られたことが印象に残りました。



共謀罪法強行採決に抗議！ 19日抗議集会

6月19日(月)共謀罪法強行採決後、最初の19日定例集会には、約50人が参加。平和をあきらめない北九州ネット主催。今回は、弁護士チームで運営した。最後は、高瀬菜穂子県議がスピーチとシュプレヒコールで閉めた。次回7月19日(水)は、女性チームが担当する。場所は小倉駅前。



平和とくらしを守る北九州市民の会
〒803-0817 小倉北区田町13-21 田町ビル3F
093-592-5000 FAX093-571-4346
<http://siminnokai.sakura.ne.jp>
e-mail:koe@siminnokai.com

北九州市民の会ニュース

八幡市民会館、当面保存へ

今後の予定

北九州市は、6月27日付で、リポーン委員会の提案を見送る回答をし、八幡市民会館を当面は外観を現状のまま残す方針を固めた(新聞記事)。「八幡市民会館の活用を求める連絡会」(竹下代表)は、6月20日(第11回)、7月4日(第12回)と連絡会を持ち、市民アンケートのまとめパンフレットと、連絡会としての保存提案を改修費も提示しながら検討している。この結果を共有して、対市要求交渉と記者会見を、以下の要領で実施します。市民会館の保存を求める市民の皆さんのご参加をお願いします。

07/14(金) 254回 さよなら原発金曜行動
18:00~19:00 小倉駅デッキ

07/16(日) 日中国交回復45周年・八幡支部結成10周年記念劉福君二胡コンサート
14:00 黒崎コムシティー7F 子どもホール
会費2000

07/17(月) 14:00~16:30 200円商工貿易会館 城野遺跡の現地保存をすすめる会講演会
講演 西谷正氏「城野遺跡公園の実現に向けて」
白木英敏氏「いせきんぐ宗像・田熊石畑遺跡歴史公園からのメッセージ」

7月11日(火) 13:00 文化・スポーツ局
13:30 都市マネジメント課
14:30 記者会見

07/21(金) 255回 さよなら原発金曜行動
18:00~19:00 小倉駅デッキ

八幡市民会館 当面保存へ

戦後日本を代表するモダニズム建築家、村野藤吾(1891~1984年)の設計で、老朽化により存廃が注目されていた八幡市民会館(北九州市八幡東区)について、市が建物を当面保存する方針を決めたことが、分かった。2014年3月末に市が閉館を決定して以来、建物の利活用を巡って建築界や市民団体を巻き込んだ議論が3年以上続いたが、事実上の「現状維持」で決着する見通しだ。



村野藤吾

1958年に完成した市民会館は、八幡製鉄所にちなんだ赤茶色のタイル張りのデザインが特徴で、村野の円熟期の作品として建築界を中心に高い評価を受けている。

一方で、市は市民会館として継続使用するためには耐震化やバリアフリー化が必要とし、改修費に15億~20億円かかる試算。公共施設の大規模なリストラを進める行財政改革の方針を基に機能廃止を決定し、昨年3月に閉館した。

これに対し、日本建築学会などは文化遺産としての保存を要望し、市も民間資本を活用して再生する方法を模索。地元財界や有識者らで構成するまちづくり団体が今年4月、大型遊具などを設置し子どもが遊べる施設」として利活用する案を市に提出した。

この案に対し、市は「資金調達や事業の継続性に課題が残る」として採用を見送り、当面は外観を現状のまま残す方針を固めた。市は今後、内部は人が常時滞在しない倉庫などに活用する方向で検討する。

巨匠・村野藤吾設計 北九州市「外観維持」



当面の保存が決まった八幡市民会館。北九州市八幡東区で、比嘉洋樹撮影